



This is our **Communication on Progress**
in implementing the principles of the
United Nations Global Compact.

We welcome feedback on its contents.



Communication on Progress

2019年8月26日

株式会社 **アイ・シー・アイ**



Interactive
Communication
Innovator

1. 2019年度 COPにあたり社長のステイトメント
2. 国連 グローバル・コンパクトが宣言している10原則
3. 会社概要
4. 2018-9年度活動概要
 - 1) 活動目標
 - 2) 人権
 - 3) 労働
 - 4) 環境
 - 5) 腐敗防止
5. 2019年度活動目標

1. COPにあたり社長のステイトメント



ICIもGC-NJの活動に参加して8年になりました。

私や役職員が、ICIの社会的な責任というものを意識する上で、GC-NJの活動は、とても大きな動機付けとなっています。本年度の活動は、この報告書に記載されている通り、企業が社会的責任を果たすためになにより大切なことは、ニュースなどで問題になっている人権保護、労働環境の充実、腐敗防止への取り組みにつき、当社で働く一人一人が自分のこととして、自らの意志で行動することと思います。

またそのような社員の取り組み・行動に対し、会社としても出来るだけのバックアップをしてまいります。今年度の取り組みは、そうした自らの意志で動くようになることを重視して、地域社会への参画、労働環境の見直し、そして国際的な支援活動の情報収集を行いました。GC-NJメンバーとしては、最小の部類にある会社ですが、出来ることを継続して実践していくつもりです。

代表取締役社長
藤岡 有三

2. 国連グローバルコンパクトが宣言している10原則

人権

企業は、

原則 1 : 国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、

原則 2 : 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

労働基準

企業は、

原則 3 : 組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、

原則 4 : あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、

原則 5 : 児童労働の実効的な廃止を支持し、

原則 6 : 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

環境

企業は、

原則 7 : 環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、

原則 8 : 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、

原則 9 : 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。

腐敗防止

企業は、

原則10 : 強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。

3. 会社概要



社名 株式会社 アイ・シー・アイ
Interactive Communication Innovator, Ltd.

設立 2009年4月1日

資本金 8,250万円 (2017年01月01日現在)

代表取締役 藤岡 宥三

事業内容 (1)セキュリティ対策事業
(2)コンサルティング事業
(3)システム・インテグレーション事業
(4)システム開発事業

所在地 東京都港区愛宕1丁目6番8号 愛宕小西ビル
代表電話： 03-6459-0063 / FAX： 03-3437-5197

労働者派遣事業 (許可番号 派13-305729、許可年月日 平成26年11月1日)

■ 2018年3月～2019年9月の活動実績 ⇒ **グローバルコンパクト活動の浸透**

- ・ 人権保護
- ・ 労働環境の充実
- ・ 腐敗防止への取り組み

について、会社との関わり方や、時事ニュースなどといった身近な問題をテーマとしたアンケートを行い、各問題を他人事ではなく、自分事化させることで、グローバルコンパクト活動に関心を持たせ、日々の業務の中で、これらの問題について自然に考えさせる仕組み作りに取り組を行った。

1) 人権保護への取り組み

SDGsの認識を高める啓蒙活動の実施

GCNJの総会参加報告に加え、SDGsの認識を高める活動を実施。メールでの全社員への伝達に加え、月に1度の帰社日にて日頃他社へ出向している社員を集めSDGsについての内容説明を行った。動画やアクションガイドを見てもらい、SDGsの内容や今からでも簡単に自分たちができることについての認識をもつことによって、存在そのものの浸透と実際の活動についての意識を高めることができた。



2) 労働環境の充実

現場の声を聴く機会をもける帰社日の開催

- ・現在の弊社業務は、契約先企業での就業が中心となり自社社員とのつながりが限定されたものであったが、帰社日の開催を行うことで帰社日を設けることで社員間のコミュニケーションが活発となり、メンタル面などにおいてもケアできる体制を目指している。
- ・帰社日の中で、実業務で使うExcelなどの学習の機会や自社の伝達事項について直接やり取りする機会が設けられている。対面でないとわからない必要な物事について、理解をより深めることができている。

コミュニケーション機会の創出

帰社日と合わせ、懇親会も数か月に一度実施する。社員が普段業務で接しない他拠点の社員とも交流することができ、互いの現状の業務内容や社員それぞれの体調・メンタルについても確認ができる良い機会となっている。

2) 労働環境の充実

実務にかかわる勉強会の開催とヒアリング機会の創出

帰社日の中で、実業務で使うExcelなどの学習の機会や自社の伝達事項について直接やり取りする機会が設けられている。対面でないとうからない必要な物事について、理解をより深めることができている。

勉強会については、業務にかかわる必要なものを直接聞き年々アップデートし、実際に開催に至っている。フィードバックも必ず実施することで受講した社員たちに必要なものを把握することができる。

3) 腐敗防止への取り組み

環境把握

本社の社員は人数が全体的に少ないうえ、他社に出向している社員も多数ですが、可能な限りチーム（複数名）編成をとることで、社員一人一人、互いを把握しやすい環境にある。

ISMSテストの実施

年に2回のISMSテストを全社員に向けて実施。セキュリティにかかわる内容は他社へ出向している社員にとっても重要事項であるため、必ず規定の点数以上を取得するようにしている。

過去にニュースとなったインシデントの事例などもあげ、昨今のニュースの認識についても併せて確認することができる。

4) 環境への取り組み

環境への取り組み

- 中古品の活用
本社のパソコン等の機器は、一部を除き大半が中古品を利用。
- ペーパーレス
G Suiteのハングアウト等を利用したWeb会議を行うことで、資料をPC上で閲覧することでペーパーレスを行っている。また、費用や時間の節約にも繋がる。
- 段ボールの再利用
荷物の梱包の際、以前使用した段ボールなどを再利用して、省資源化を実施。

■ 2019年度の活動目標

昨年から引き続き下記を目標とする

⇒ 社内に向けた情報の伝達・発信と積極的な参加

- 社内活動の活性化

→ コアメンバーの増員

- 分科会などへの参加

- 社外での活動を社内向けに伝達・発信

(具体例：メール・Facebook等での発信、帰社日での参加報告)